

## 4 道 徳 教 育

### (1) 重点目標

- ①よく考えて判断し、適切に行動しようとする子どもを育てる。
- ②目標をもち、粘り強くやり通そうとする子どもを育てる。
- ③思いやりの心をもち、温かく励まし合う子どもを育てる。
- ④生命の尊さを知り、命あるものをいとおしむ子どもを育てる。

### (2) 児童の実態

明るく活動的で、休み時間には体育館やグラウンド、遊具などで元気に遊んでいる児童が多い。合図とともに遊びを止め、使った道具をきちんと片付けるなど、約束事は守ろうとする素直さをもっている。また、縦割り班活動や学校・地域の行事に進んで参加し、友だちに優しい言葉をかけて励ます姿や、登校班や縦割り班で上級生が下級生を思いやる様子も見受けられる。学校教育目標「夢に向かって ふみ出す一歩」を受けたこれまでの取組により、自分で目標に向かって前向きな気持ちで取り組もうとする意欲が育ってきている。児童会やPTAでは、あいさつ運動に継続して取り組んできており、進んであいさつをすることのよさを理解し、児童が少しずつ増えている。

しかし、衝動的に自分本位の行動をとってしまう児童の他に、適切な対応ができずに周りの児童と良好な関係を築くことや、物事に対する努力の継続に対する取組を苦手としている児童がいる。また、自分に自信がもてず、自己有用感の低い児童も少なくない。そこで、今年度も学校教育目標に向けて、児童一人一人が自己の生き方への考えを深め、周囲の人とよりよい人間関係を築いていくためにも、自らの課題を見つけて実践することができる力を高めていくことが必要であると考えている。

### (3) 具体的な目標

- ① 児童の実態や発達の段階を踏まえてねらいを焦点化し、道徳的価値を理解できるように多様で効果的な指導方法を工夫する。
- ② 特別の教科道徳と各教科、行事等での体験との関連を図り、粘り強く努力することや温かい心の大切さ、生命の大切さについて指導する。

### (4) 目標達成のための方策

- ① 各教科や行事を通して最後までやり通すことの大切さを実感させ、達成感や成就感を味わわせる。
- ② 各教科の指導内容、教材等で道徳教育に深く関わるものを通して、道徳性の啓発を常時行う。
- ③ 特別の教科 道徳として、重点目標にかかわる価値の指導に十分な時間を確保する。また、自分との関わりで道徳的価値について深めることができるように、発問や指導方法を工夫する。
- ④ 豊かな体験の場を充実させ、互いに思いやったり助け合ったりするよさを体験させたり、自然や生き物を慈しむことの大切さを実感させたりする。
- ⑤ 学校報や学年報、懇談等で子どもたちの様子を家庭や地域に知らせ、道徳教育の啓発を図るとともに、連携を進める。